

大地には、すだれのように干し柿が吊される季節になりました。今年の猛暑残暑が幻だったように、朝晩の冷え込みが感じられるようになりました。紅葉も進んで来て、美しい秋がやって来ます。

10月は、運動会に盛り上がり、脱穀 新米 林檎 栗 柿 ぶどう 芋 など 毎日が 食べ物列車に乗っているような日々を送りました。

今年は 一ヶ月遅らせた運動会。天気も晴れとなり、早朝からの開催。もちろん練習もリハーサルもほとんど準備はなくても、あのように盛り上がってしまう運動会。練習なんて本当に必要ない、子どもの日々の時間は、子どものために使うべきものだと感じて頂けたのではないのでしょうか。

今年の猛暑で作物の出来が心配されていますが、収量は別にして、何とか季節の風物詩の果物や野菜が、例年どおり、子どもたちの胃袋を楽しませることができて安心しています。大地は、里山に位置して暮らしています。この恩恵を受ける、享受するための教育です。そして 大人も子どもも食べるのが楽しく大好きです。それを、気楽に気ままに、焚き火で料理して、安心安全に収穫したばかりの物を食べる教育、これは至福で最上の物だと感じています。本物の味を、本物の環境で、子どもたちの目の前で出来上がる、このドラマチックなストーリーのある暮らしが、子どもたちの目に焼き付き、味覚嗅覚に残っていったら幸せです。



サツマイモの蔓 大根の間引き菜 など、地味な食材も、焚き火と自然調味料で、抜群なおいしさ大人気となっています。地味な物に命を与え、力を引き出し 輝くものにしていくことは、子育てに共通するものがあります。

11月も、焚き火に 薪ストーブに大活躍してもらいましょう。

## 【本当の楽しい育児】

前日までの大雨が嘘のように、秋晴れに恵まれた子ども祭。皆さま、本当にありがとうございました。天気は、どうにもコントロールできないので、雨の場合は 注文の多い料理店 のように、避難場所無し 雨具完全装備 ドロドロ 覚悟 で楽しめる方のみ入場 OK の看板を出そうと秘かに思っていました。雨だからこそ、工夫とアイデアとこの天気だからこそできる楽しさを提供する努力 マネージメントが試されると覚悟していましたが・・・

近年 大地の子ども祭のような催し物が めっきり減ってきたように感じます。行政や協議会などでの催しはありますが、園独自の公開お祭りやバザー などはあまり聞かなくなりました。

手間暇かかる 保護者の負担が大きい 働くお母さんが多い 園行事日々が忙しい 安全性のリスク 食品リスク 各種ハラスメント インスタント効率性便利さ重視 人間関係の希薄化や面倒臭さ そして 社会が寛容でなくなってきた・・・などの要因だと考えています。

たぶん 大地のようなお祭りを普通に企画実行する場合は、2ヶ月程前から実行委委員会を立ち上げ、きめ細かなマニュアル リスク マネージメントをする事が必要になるでしょうが、これでは さすがに疲弊しますし、マニュアルが決まっているなんて面白くありません と青ちゃんは思います。運動会と同じようなもので、正直 大地の運動会企画も、ほんの1時間程度の企画と前日の準備だけです。残業もありません。残業とは 勤務時間内で仕事できないマネージメントできないから残業をするしか無い という力不足 を露呈しているものだと考えています。

子ども祭の準備 今回は手作り品の製作はなかったので、月 水 金の全体準備をご協力頂きました。もちろん、各家庭でも、個人的グループ毎に 準備練習されていたと思います。ありがとうございました。それでも、月曜日は、皆で食べ物一通りを作り味わい、水曜日はソーセージ作り 看板 フィナーレ練習 金曜日は コロッケ 麺の仕込み 各種材料準備 などで進みました。

天気は当日朝まで時雨れており、心配されましたが、皆さまの願いと事前努力と熱意のお陰で、見事な天気と劇的に恵まれました。世間一般のお祭りならば、10時頃開店、その3時間前ぐらいから首に名札を付けた大勢のスタッフが準備というイメージですが、大地は なんと！！ マルシェを含めて 7時半からスタート 7時前からの準備で、1日を賄ってしまう という保護者のマネージメント能力の凄さは、卓越しています。(もちろん 周到な家庭での事前準備のお陰ですが) マルシェ 各コーナーでの準備仕込み環境設定 その合間の人形劇 見世物小屋 フィナーレ 売れっ子芸能人並のスケジュールの中、たくさんの来場者に笑顔でライブキッチンを、ギリギリのスタッフで賄っている姿は、凄いことです。本当に、感謝感激雨あられです。このセルフプロジェクトマネージメント能力あってのお祭りです。

更に、全てが 質が高い！！ 食品一つ一つが味が最高だという評判でした。もちろん 素材調味料等は、安心安全で質の高いものを使っておりますが、それを 手作り で 焚き火 竈 囲炉裏などで、灰や煙にまみれて、提供している場から生まれる食品類。ラーメンの麺とスープ 五平餅のタレ 揚げたてのコロッケ あぶりたてのソーセージのうまさ デザートのホットケーキとシェイク 職人技の手打ち蕎麦 そして、大注目そしてここでしか見られない食べられないビーガン寿司の美しさ・・・ まさに「本当に美味しいものは 決して楽ではない」が、それを 自然に普通に、自然エネルギーで美味しく作ってしまうかっこよさ。

人形劇も紅葉の映える抜群の野外ステージで、静けさの中で演じられたおだんごばん。これほどの自然環境で、見事に演じられるシュタイナー人形劇は、まさにシュタイナーの真髄だと、自画自賛しています。外から見ていて、その存在 空気感が違いました。

見世物小屋は、とてもほっこりするもので、予想以上に大人気で、何度も見に来る人達続出でした。秋の大地でとても穏やかかつ笑いのある一時、お客さんの見ている顔が幸せいっぱいでした。

最後のフィナーレは、まさにミュージカルを彷彿させる見事な舞台でした。ユーモアかつ自然体の中に、めちゃくちゃ質の高い本物が輝く、まさに 宮澤賢治の序にあるような、透き通った食べ物満載の世界でした。

小沢牧子さんの言葉に 「人は仲が良いから一緒にご飯を食べるのではなく、一緒にご飯を食べることにより 仲が良くなる」とあります。仲が良い同士の行動するのではなく、一緒に作り行動しながらの過程で、相手の人となり理解し 尊重し、仲の良いコミュニティを人間関係を構築していく ということでしょうか。仕事で忙しい 時間が無い と言って、ご飯を作らない インスタントで済ますのではなく、一緒に試行錯誤しながら作る 味わう 楽しむ事により、相互理解 仲がよくなり コミュニティが、そして、お互いの子どもや家庭を見守り、将来にわたり親睦を深められる関係性の構築、そのための礎の一部でも、大地時代にお手伝いできたと言うのが 大地の願いです。そして、手間暇かかる 負担が大きい と思うよりも、苦労や努力の末に見える世界(登山のように)の美しさ それが 子育ての場合は 10年20年先の光景の輝きを目指して、大地時代を過ごして頂きたいと願います。

「本当に楽しい子育て時代は 決して楽ではなかった」 その先に見える光景は、楽なことでは見えない 得られない子どもの成長 更に 家族の一人一人の充実感達成感が、ドラマとしてストーリーとして刻まれると信じています。